

派遣されてきた妹艦がレズだった件について

ラシド

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

発狂する叢雲
困惑する吹雪
転職する提督
絶対見てくれよな！

目 次

派遣されてきた妹艦がレズだつた件について

派遣されてきた妹艦がレズだつた件について

提督「……んで任務どうだつた?！」

吹雪「はい今日は私がMVPです!!!!」

提督「そうか、ご苦労さん今日はゆっくり休みたまえ。」

吹雪「分かりましたありがとうございます。」ギイバタン

私は、特型駆逐艦吹雪です。半年前からこの鎮守府に居ます、みんな優しくていい人なんですよ……1人はのぞいてね……

吹雪型駆逐艦の部屋にて。

吹雪「ただいま。」

叢雲「吹雪!!どこ行つてたの!?会いたかったわよん ? あの、

ゴミ提督吹雪に出撃しやがつて処すべきね!」

吹雪「叢雲ちゃん落ち着いて私は、無事帰つて來たよ (汗)」

叢雲「そうよね、無事帰つて來たんだし後でベッド入る? 一緒に子作りしない?」

吹雪「キモイから辞めて」

そう、こここの鎮守府には私の妹の叢雲ちゃんがいるのだから一年前までは普通だつたのに今となつてはどうしてこうなつたのオオオオオオオオオオオオオオ。1年間の間何があつたの!?コイツは正気か!?頭がクレイジーサイコ大井かよ!?

吹雪「叢雲ちゃん私は入渠行くからね。」

叢雲「行つちゃダメよ吹雪!!!今ここで吹雪の汗汁飲むから!!!」ガシ

吹雪「気持わりいから、離れろ害虫。」

叢雲「んもうブツキーちゃん冷たいんだからだから、1・5でいいからね ?」

吹雪「うるせえ黙れ。」ダツ

入渠にて

吹雪「はあ、なんであーなつたんだろう…」

睦月「また、叢雲さんにヤラれそうになつたの?」

吹雪「あつ! 睦月ちゃんうんまたヤラれそうになつたよ本当勘弁して欲しいよ……」

夕立「吹雪ちゃん来る前までは叢雲さん真面目だったぽい。」

睦月「どうしてこうなつただろうね？」

夕立「ぽい～」

ガラ

!!!

叢雲「吹雪!!!!オ○ニーじゃ我慢出来なくなつたから!!!!今ここでしま
しょ!!!!」叢雲ダイブ

吹雪「近づくなよ変態が!!!!まじできめえんだよ!!!!」

叢雲「ブクブクブク（ありがとうございます!!ありがとうございます!!）
す!!そして吹雪が入つた入渠最高!!!!」

睦月＆夕立（うわあ～）冷たい目

間宮にて

吹雪「はあ…もう嫌だ…」――――――（――――）――――

睦月「大丈夫だよいつかは、元に戻るから……多分にやし
…………」

…………

夕立「睦月ちゃんの言うとりだっぽい…………多分ぽい…………」

吹雪「もう嫌だよこの鎮守府、あんなベタベタくつつく妹なんて嫌
だよ、この前なんか夜戦ヤラれそうになつたし…………気持ちよ
かつたけどね。（ボソツ～…）

睦月（気持ちよかつたのかよ…………）

夕立（何感じてんねん…）

夕立「そ、そんな事より早く食べよぽい。」

睦月「そうだよね、吹雪ちゃん食べよにやし。」

吹雪「うん、いただきます。」

吹雪「あ～甘さが染みるわ～。」

バーンドガ

叢雲「吹雪!!!!今のはスプーンちようだいペロペロしたいから!!!!」

吹雪「お前何処から来たんだよ…消えろや細菌、あと服着ろ!!」

睦月＆夕立「((?▽?；；)ア、ハハハハ…」

次の日

提督「えー…次の海域なんだが吹雪と叢雲と陸奥と加賀、瑞鶴、神
通だ。」

提督「えー…次の海域なんだが吹雪と叢雲と陸奥と加賀、瑞鶴、神
通だ。」

吹雪（ちつなんで叢雲ちゃんと一緒なんだよ、コイツと組むとろくな事しか無いんだけど…）

吹雪 うん とりあえずそのあた名前めぐらとして息荒いからギモイ。

海域にて

陸奥「敵艦隊発見戦闘準備
加賀「制空権確保!!!」
！」

力賀一弐ノ木石住!!

トカカカカカカカカカカカン!!!

人
之
事
業
正
大
事

吹雪「きやー!!」 ——バアーン

神通!「吹雪ちやん大丈夫!?」

叢雲山あんにやろ私のラブ・ラブのブキブキを中破しやがつて○すぞ

吹雪! フブチンド二いつたしあと、ラブラブじやねえし。一

叢雲! こうなつたら酸素魚雷ウオオオ

神通 「叢雲ちゃん戻つて来てええええええ!!」

瑞鶴一癡々何してゐの!!!

（旗盤陸奥さんとの河ガノ無

「…………！」力の限り叫ぶ。

酔魚雷の使い方 物理で敵船に近づく視点で見たり

陸奥一。
丁。)

加賀 「へえー酸素魚雷あんな使い方するのねこれで五航戦を…」

瑞鶴「それ以上言わなくていい。」

吹雪（もうわけわからん⋮）

提督「で……任務終えたと……何故瑞鶴は、顔が腫れてんだ？」

「いや、なんて言うか叢雲ちゃんと加賀さんが単独で主力艦隊

物理的に倒したって……」

提督「ええ……（困惑）何で戦つたんだ……」

叢雲 「私は魚雷で倒したわ！」（＼・ω・／）キリツ

加賀「私は五航戦を使ってやりました。」（ ）

提督「だから、瑞鶴は顔腫れてたのか…とりあえず今日は休んでて

いいぞ。

類
文

睦月 「あつ、吹雪ちゃんお疲れ様にやし。」

夕立「吹雪ちゃんおつかれぽい」

吹雪 「ただいま……」

夕立「どうしたの？元気ないぽい？」

吹雪「今日の任務すごかつたよ……もう嫌だよ……酸素魚雷を物理で扱う人初めて見たよ……」

睦月&夕立「は?」

睦月（絶対叢雲さんだなこりやゝもうこの鎮守府わけわかんねえ。）

外立（睦用突つ込む所そこ）

「2人ともどうしたの急に黙つてて？」

睦月「いや、何でもないよ今日の工口本の事考えてにや。ねえ夕立

ちゃん。

夕立「そ、そ、そ、うだつぽい。」

吹雪 「そ、うなんだ私は、間宮に行くね。」

睦月＆夕立 「ちよ待てよ！ ブツキー」 ダ

吹雪型の部屋にて

提督 「吹雪居るか？入るぞ。」 ガチャヤ

叢

「はあああああああああああああああああああああああああああああああああ

Fin